



世に
上
の
世に

一
の
世に
下
の
世に

改
書
の
世に
下
の
世に

易
の
世に
下
の
世に

下
の
世に
下
の
世に

一
の
世に
下
の
世に

下
の
世に
下
の
世に

下
の
世に
下
の
世に

下
の
世に
下
の
世に

下
の
世に
下
の
世に



新井白城 名、祐登、字、謙吉、白城ト号ス
又黄州龍山、古易館等ノ号アリ、通稱織部
後白城ヲ通稱トス、儒学ニ邃ク、中年ノ後好シ
テ和歌ヲ詠シ、倍々我刊ノ典故ヲ修ム
寛政四年五月十四日歿ス、歳七十八

服部南郭 名、元高、字、子遷、右衛門ト
稱ス、南郭又其号ト号ス、年少柳屋吉保ニ任、
後物徂徠ノ門ニ入り、專ラ古文詩ヲ修ム、又好
シテ和歌ヲ詠シ、倍々我刊ノ典故ヲ修ム
宝曆九年五月二十一日歿ス、歳七十七

高芙蓉谷 名、孟彪、字、孺友、芙蓉ハ其
号又中興岳畫史ト号ス、通稱ハ大島逸記
又近藤喬官ト云フ、甲斐人、京師ニ遊学シ、廣
ク時流ニ交ル、又篆刻ヲ以テ一時ニ喧シ、是ヨリ
先御名篁洲、池永道雲、細井廣澤等篆刻ニ
名アリト雖モ、唯明人ノ一班ヲ窺フニ過キ、其
器出ツルニ及ビテ、古今印章ノ制度ヲ商榷シ、遂
ニ秦漢ノ淵源ニ溯リ、流沁ヲ探及シ、餘蘊ナシ
本邦印章ノ一技、是ニ至リテ、大ニ備ハル、皆川湛園
柴栗山稱シテ、印聖ト云フ、又萬葉坊門以テ從ヒテ
朝儀典故ノ説ヲ受ケテ、以テ有職政典ノ奥底ニ
通曉ス、倍々我刊ノ典故ヲ修ム、其ノ及フ所
侯ニ任ヒテ、儒員トナリ、家ヲ移テ、江都ニ来リ、
不幸暴ニ傷寒ヲ病ミテ、歿ス、時、天明四年四月
ニ十四日、歳六十二

木村巽齋 名、弘、字、孔恭、字、世甫、通稱壺井
屋、其号又吾右衛門ト云フ、浪華ノ人、博学多藝
書畫ヲ能クシ、詩ニ長シ、又物産ノ学ニ精シ、四方交
手シ、支ノ幕政ニ名海内ニ聞ユ、晚年家産ヲ
蕩盡シ、文彦具ッテ、常カテ以テ業トス
享和二年歿ス、歳六十七

釋高庵 名、原資、芙蓉ト号ス、江戸東禪寺
ノ僧、幼ニテ聰敏、詩アリ、人目シテ、ヤ文珠ト云フ
物徂徠ノ人、諸子ト交リ、詩名一時ニ高シ、中井竹山
曰ク、我邦先學詩ヲ作ルルヲ、官高ニ當ルミ、ハ、唯新
井白石、僧高庵ノ二ト

江馬蘭舟 美濃ノ人、細香女史ノ父アリ、匡シ
業トシ、箱山崇ト号ス、文アリ